新名神高速道路建設事業に伴う

筆ヶ崎古墳群
第３次発掘調査　現地説明会資料

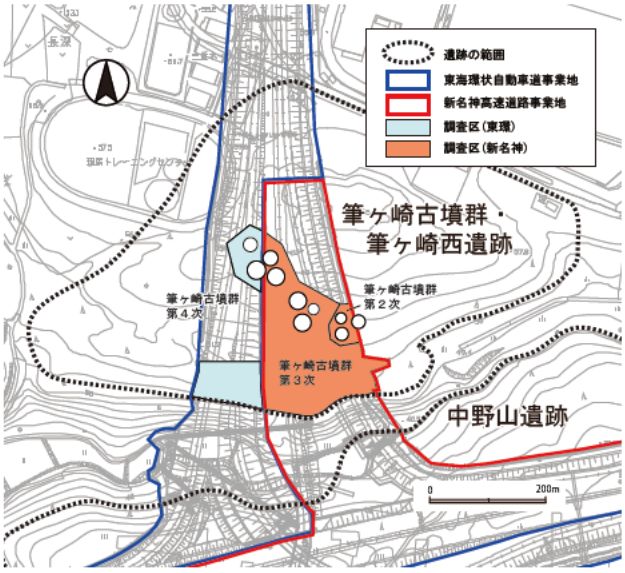
三重県埋蔵文化財センター

― はじめに ―

筆ヶ崎古墳群は、朝明川と員弁川にはさまれた丘陵にあります。古墳群は 10 基からなり、古墳時代後期から飛鳥時代（今から約 1400 年前）につくられました。昨年度に３基、今年度に７基の古墳を調査しています。

また、この遺跡には古墳のほかに、飛鳥時代から奈良時代(今から約 1300 年前）の集落もつくられていたことが分かりました。

遺跡の位置



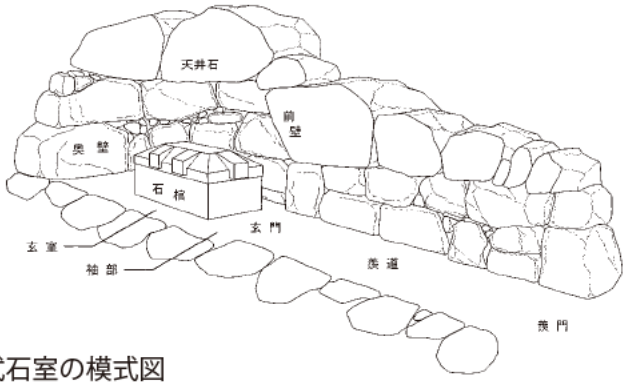
筆ヶ崎古墳群の範囲

５号墳の横穴式石室

― 古 墳 編 ―

今年度調査の古墳は、いずれも直径２０m以下の円墳で、周りに溝がめぐります。横穴式石室と呼ばれる埋葬施設を用いていました。宝物と適当な大きさの石材を採ることを目的とした盗掘にあっていました。

しかし副葬品だった須恵器・土師器のほか、耳環など、わずかですが当時を知る手がかりを得ることができました。



横穴式石室の模式図

古墳の横から通路がのびていて、奥に亡くなった人を安置する部屋のような空間があります。石を積み上げてつくります。

近つ飛鳥博物館『横穴式石室誕生』2007 年より引用

５号墳の成果

墳形・規模　直径 14 mの円墳です。石室は長さ 5.9 m、幅 1.1 mです。

出土品　耳環１点のほか、須恵器が出土しました。

時期　７世紀はじめから前半です。

６号墳の成果

墳形・規模　直径 12 mの円墳で、石室は長さ約 6.1 m、幅は 1.3 mの大きさです。

出土品　耳環１点、須恵器のほか、かんざし１点が出土しました。

時期　６世紀末ごろと考えられます。この古墳群のなかでは古いものです。

備考　かんざしは、渡来人（とらいじん）との関わりが深いものとされています。

６号墳の埋葬施設

３号墳の成果

墳形・規模　直径 11 mの円墳で、石室は長さ 5.0 m、幅 1.2 mです。

出土品　須恵器があります。

時期　７世紀前半から半ばです。

備考　棺台（かんだい）に使われたと考えられる石の列（矢印の部分）が２列見つかりました。

３号墳の棺台

４号墳の石室と石材抜き取り痕（奥壁側よりのぞむ）

４号墳の成果

墳形・規模　直径 11 mの円墳で、石室は長さ約 5.4 m、幅約 1.2 mです。

出土品　耳環２点のほか、須恵器が出土しました。

時期　７世紀前半から半ばです。

４号墳の耳環

3・4・10号墳

10号墳の成果

墳形・規模　直径11 mの円墳で、石室は長さ5.4 m、幅1.1 mです。

出土品　須恵器が出土しました。

時期　7世紀前半から半ばです。

備考　礫(れき)を床に敷き詰めていたと考えられます。

10号墳の礫床（奥壁側よりのぞむ）

４号墳出土の須恵器

まとめ

①　古墳は、６世紀末から７世紀半ばにかけて６・７号墳→５号墳→３・４・10・11号墳の順につくられました。

②　石室には小さな石材を使っています。石の少ない場所ですので、石材確保に苦労したことでしょう。

③　６号墳出土のかんざしから、渡来人(とらいじん)の葬られていた可能性が高まりました。

― 集落編 ―

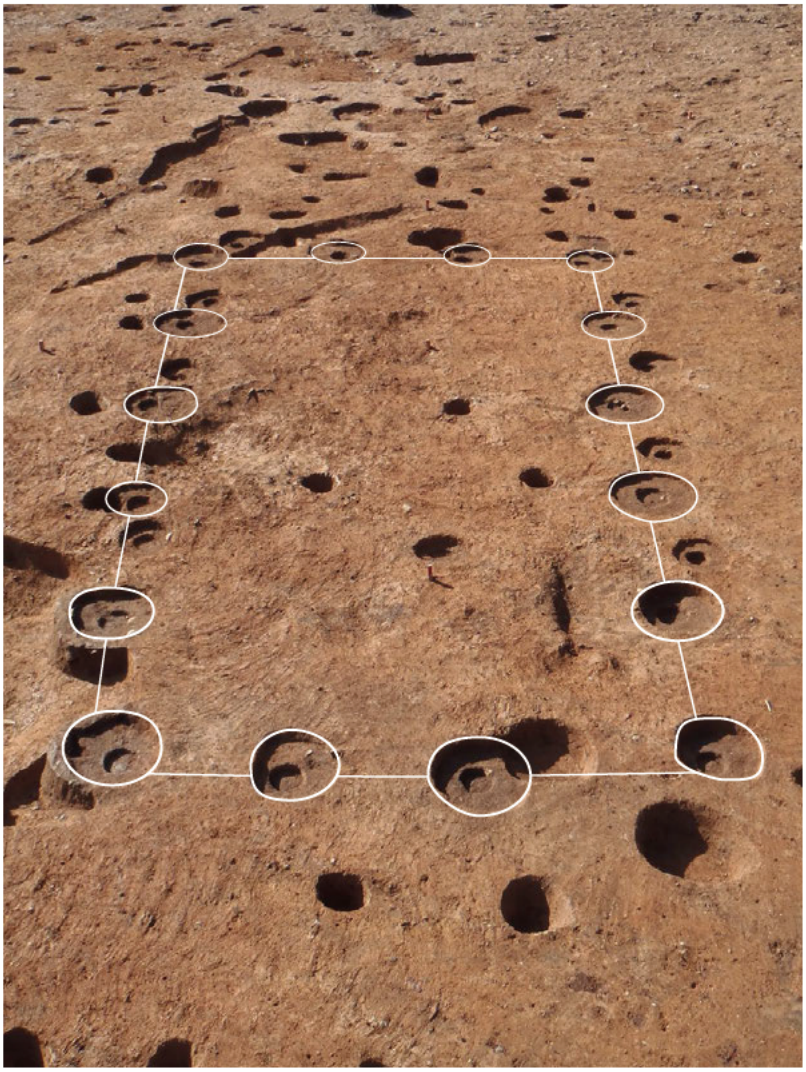
古墳よりも低い所からは、飛鳥時代から奈良時代（約1300年前）の集落が見つかりました。

その数、竪穴住居46棟、掘立柱建物23棟にもなります。ほとんどの竪穴住居が四角形の平面形で、カマドを持っています。一辺4mほどの小規模のものもあります。

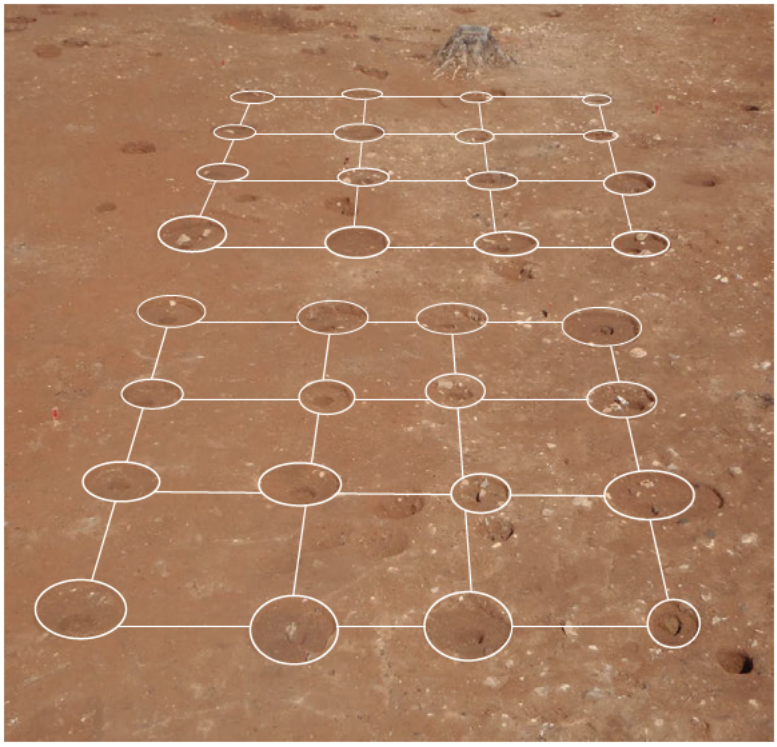
掘立柱建物は、住まいとして使われたと考えられる建物（側柱建物）と倉庫として使われたとみられる建物（総柱建物）があります。総柱建物は、重量物にも耐えられるように内側に床を支えるための柱を据えています。

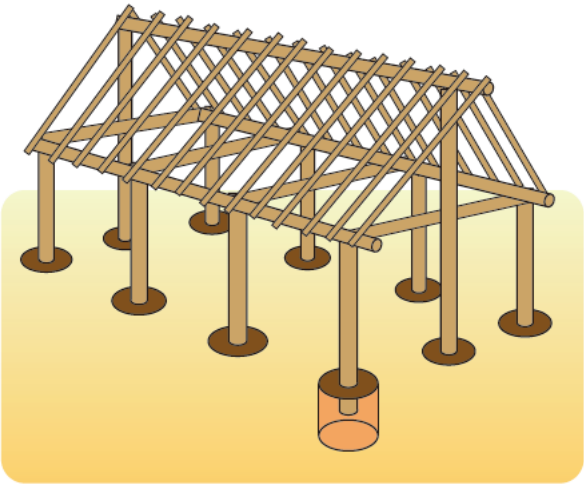
この遺跡では、5×3間の大型の掘立柱建物が見つかっています。また、倉庫がたくさん見つかっており、この2点がこの集落の性格を探る上で重要な点です。

主な出土品として、煮炊きに使われた土師器の甕が多く出土しています。須恵器では盤などが見つかっています。



大型の掘立柱建物　5×3間の大きさです。その規模から有力な人物を想像させます。

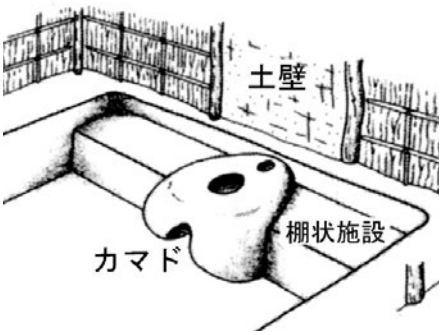




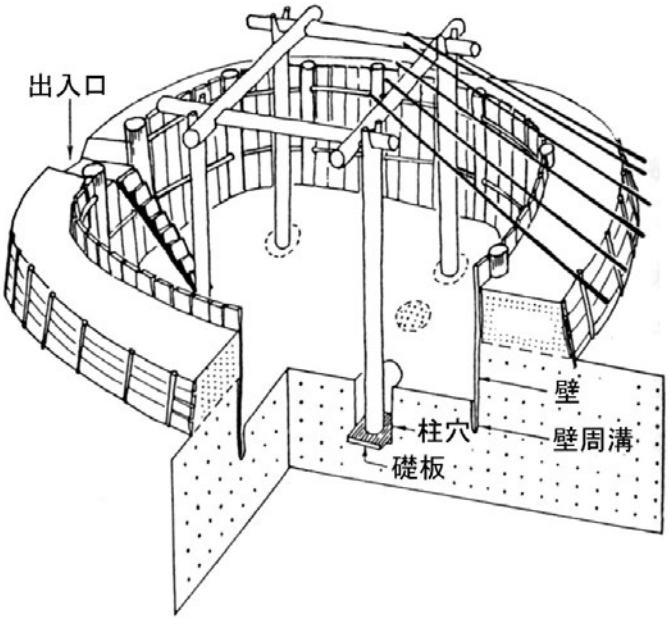
掘立柱建物の模式図

並び立つ倉庫　3×3間の総柱建物が2棟ならんでいます。今回の調査で、たくさんの倉庫が見つかりました。一体何を入れていたのでしょうか？

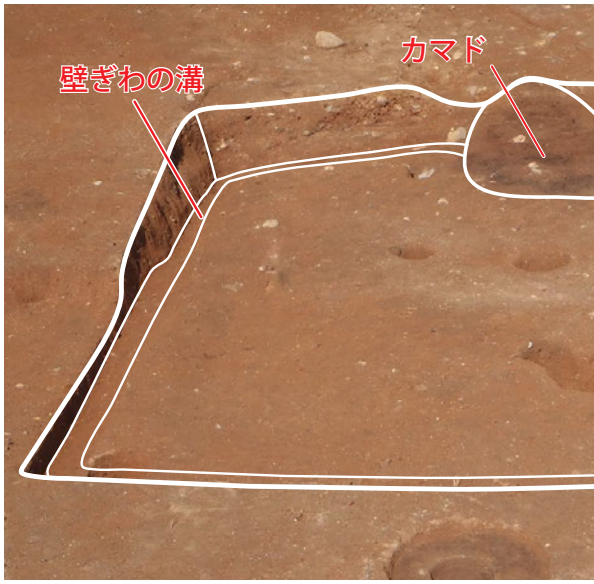
カマドの発掘　カマドのたき口に土器の破片が散らばっています。



カマドの模式図（壁立式の場合）　文化庁監修『発掘調査のてびき』2010 年より引用



竪穴住居の内側　文化庁監修『発掘調査のてびき』2010 年より引用



竪穴住居　四角形で、カマドをもち、壁ぎわに溝がめぐります。

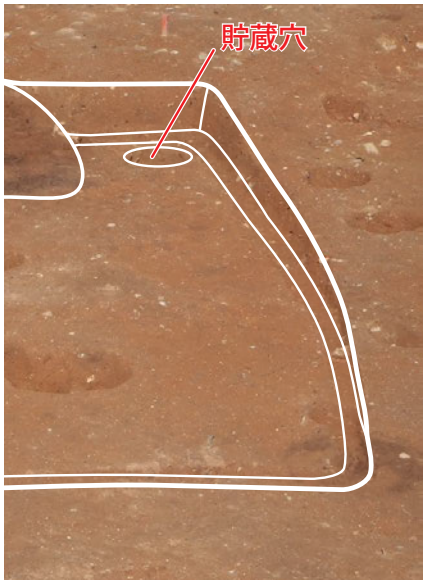
何人寝られるかな？　小さな竪穴住居では、４人くらいが限界でしょうか・・・。

漆？が付いた杯

貯蔵穴　カマドの近くにあり、しばしば土器が出土します。

集落出土の珍しいものとして、知多半島からもたらされた製塩土器、魚をとる時に網のおもりとして使われた土錘、漆？付きの杯があります。

また、鉄製品や砥石、鉄滓（鉄器を加工するときにできた残りかす）が出土していることから、集落で鍛冶を行っていたと考えられます。



煮炊き用の土師器
長胴甕と呼ばれる炊飯具です。

奈良時代の須恵器

知多式製塩土器　脚の部分です。この上に椀形の部分がつきます。ここに濃縮された海水を入れて熱し、塩を作ります。

鉄滓　この集落で鉄器を加工していたことがわかる貴重な証拠となります。

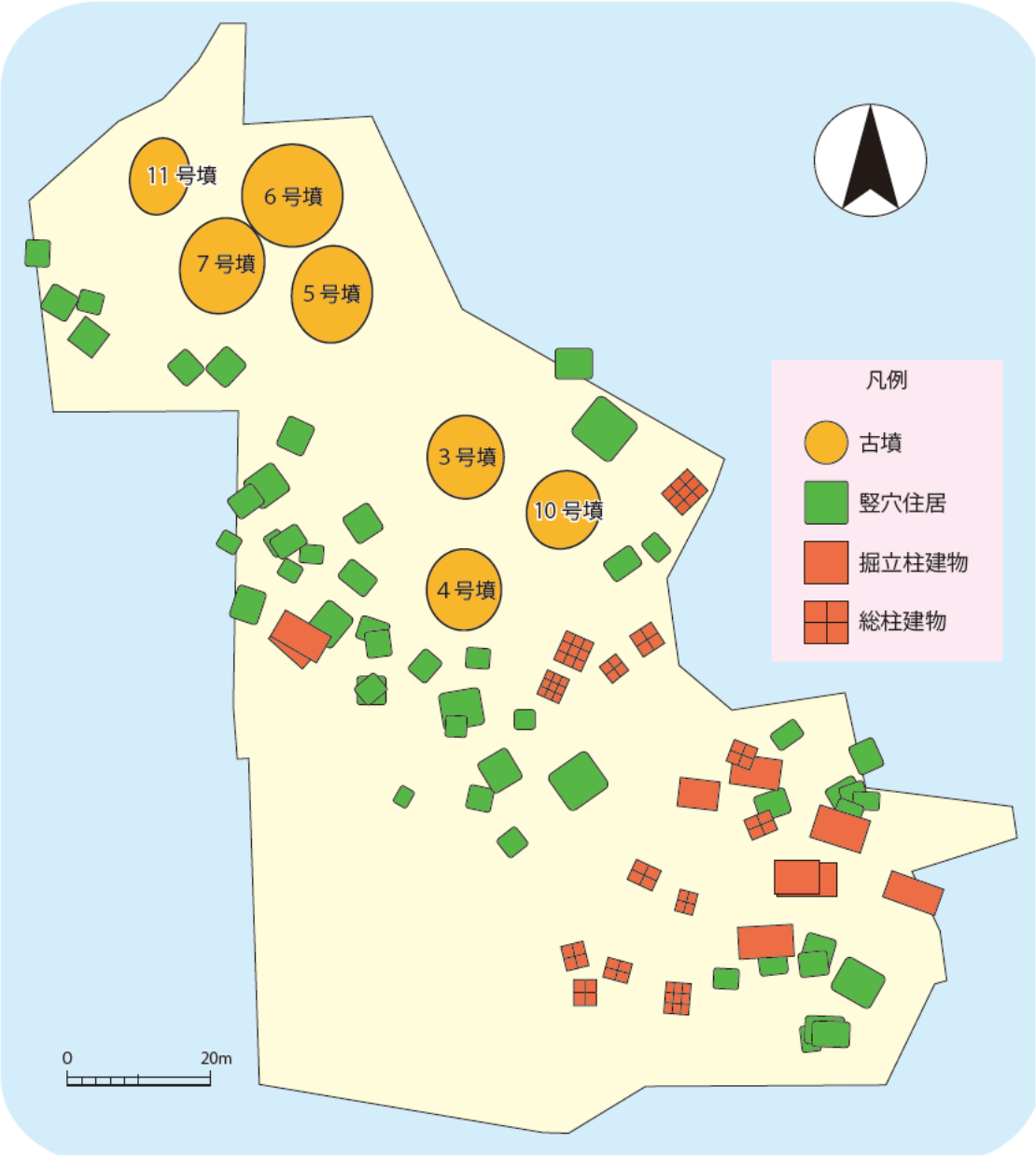
― 筆ヶ崎古墳群の発掘調査から分かること ―

1．かんざしの出土から、古墳に渡来人が葬られていた可能性が高まりました。

渡来人の候補として、秦（はた）氏・猪名部（いなべ）氏・朝明（あさけ）氏・田辺（たなべ）氏などがあげられます。氏族の特定は、今後の研究に期待しましょう。

2．集落では鉄器を加工していたことが分かりました。

鉄滓の出土から、飛鳥時代から奈良時代に鍛冶を行っていたことが分かりました。周辺の遺跡でも鍛冶に関わるものが出土していますので、この地が鉄器加工の一大拠点だったことが明らかになりました。



筆ヶ崎古墳群で見つかった古墳・竪穴住居・掘立柱建物　その数の多さに圧倒されます。

筆ヶ崎古墳群第３次発掘調査現地説明会資料

（新名神高速道路発掘調査ニュース「新あさけのいにしへ No.11）

三重県埋蔵文化財センター　〒 515 － 0325　三重県多気郡明和町竹川 503

TEL：0596 － 52 － 1732 ／ FAX：0596 － 52 － 7035　http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/

四日市整理所　〒 512 － 8064　三重県四日市市伊坂町 126 － 1

TEL：059 － 363 － 3195 ／ FAX：059 － 363 － 3196

2012 年 12 月 2 日